

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	新潟駅南口西地区優良建築物等整備事業(オフィス棟) 新潟市中央区花園1丁目地内 商業地域、準防火地域 事務所、学校 2025年2月 予定 仮想敷地 1400 m ² 875.84 m ² 8,654.19 m ² 地上10F S造 実施設計段階評価 2022年8月22日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{65.6}{37.0} = 1.7$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価アイコン	項目	コード	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.2		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	3.0
			設備の更新性	Q2.3.3	3.6
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.3		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	3.6
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	LR2.1.1	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	3.5		生物環境の保全と創出	Q3.1	4.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	4.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	5.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	4.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。
 自動水栓などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。
 OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
 建物を包み込む様に計画した緑地により、圧迫感を和らげている。

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新業)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新潟駅南口西地区優良建築物等整備事業(オフィス棟)	階数	地上10F
建設地	新潟市中央区花園1丁目地内	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	600人
地域区分	5地域	年間使用時間	3,650時間/年(想定値)
建物用途	事務所・学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2022年8月22日
敷地面積	仮想敷地 1400㎡	作成者	株式会社クレイズプラン
建築面積	876㎡	確認日	2022年8月22日
延床面積	8,654㎡	確認者	株式会社クレイズプラン



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.2

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項	
総合	計画地は新潟駅に近接しており交通や情報の拠点としてまちづくりにおいて重要な場所に位置している。敷地全体に緑豊かな外部空間を形成・公共の空間とし、散策路や広場と共にまちに開いた計画とした。
その他	
Q1 室内環境	屋光率を高く設定し、光・視環境に配慮している。F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、空気質環境にも配慮している。
Q2 サービス性能	天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	建物を包み込む様に計画した緑地により、圧迫感を和らげている。視線を遮らない様な樹木の配置、メッシュフェンス設置など防犯性に配慮している。中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー	LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。自動検針システムにより消費エネルギー量を把握し、効率的運用に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	自動水栓などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。別棟として駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、管理用車両・荷捌き車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される